

10 衛生環境研究センター関係資料

表 衛生1 環境保全に関する試験研究

試験研究	概要	担当名
微小粒子状物質 (PM _{2.5}) 成分分析調査	大気汚染防止法に基づき、平成24年度から微小粒子状物質の常時監視を始めたが、環境基準を超過するので、発生源対策試験研究の一環として成分分析を行っている。	大気・特定化学物質担当
有害大気汚染物質調査	大気汚染防止法に基づき、平成9年度から一般環境等で揮発性有機化合物(VOC)等の有害大気汚染物質についてモニタリング調査を行っている。平成29年度は、5市の一般環境等で最大21項目の調査を行った。	大気・特定化学物質担当
浮遊粉じん調査	浮遊粉じんによる大気の汚染状況を把握するための調査を行い、平成29年度は、重金属成分等の調査を1市の固定発生源周辺で行った。	大気・特定化学物質担当
特定化学物質調査	ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、平成12年度から環境大気、公共用水域水質、底質、地下水及び土壌中のダイオキシン類の分析を行っている。平成29年度は、行政検査等によるものが40検体であった。	大気・特定化学物質担当 水質担当
大気汚染の常時監視	大気汚染防止法に基づき、昭和46年度からテレメーターシステム(常時監視測定局)により二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、光化学オキシダント、微小粒子状物質(PM _{2.5})測定等の監視を行っている。	大気・特定化学物質担当
悪臭物質等調査	行政代執行後の発生ガスの状態を把握するため、平成8年度から1町の旧産業廃棄物最終処分場のアンモニア、硫黄化合物等調査などを行っている。平成29年度は、行政検査等によるものが2検体であった。	大気・特定化学物質担当
環境放射能調査	放射能のバックグラウンドを測定し、環境放射能の水準を把握するため、原子力規制庁の委託を受け、昭和62年度から調査を行っている。平成29年度も引き続き、降水中のβ線及びモニタリングポストにより空間線量率の測定を行うとともに、大気浮遊じん、降下物、土壌、野菜、牛乳等のγ線を測定し、環境中に存在する放射性核種の調査を行った。	大気・特定化学物質担当
酸性雨調査	環境省では、酸性沈着の状況やその影響を把握するため、昭和58年度から酸性雨対策調査を開始しており、県内においても平成6年度から竹田市久住町において、環境省の委託を受け調査を行っている。平成29年度は、竹田市久住町における雨水のpH等測定と成分分析等を行った。	大気・特定化学物質担当
大気環境の研究調査	県内における酸性雨の実態と推移を把握するための調査を昭和60年度から継続的に行っている。平成29年度は、竹田市久住町、大分市における雨水のpH等測定と成分分析を実施。さらに常時監視局未設置地域における実態調査を行うとともに、国立環境研究所との共同研究による森林生態系に係るモニタリング調査等に参加した。	大気・特定化学物質担当
公共用水域等の調査	昭和46年度から測定計画に基づいて実施しており、平成29年度は、39河川58地点、2湖沼6地点において、生活環境項目(10項目)、健康項目(26項目)、要監視項目(24項目)、水生生物保全項目(3項目)、特定項目(1項目)、特殊項目(2項目)及びその他項目(7項目)について年2～12回の測定を行った。また、地下水については、58地点(井戸)において、環境基準項目(27項目)、要監視項目(23項目)及びその他項目(7項目)について、年1～2回の測定を行った。	水質担当 微生物担当
瀬戸内海広域総合水質調査	瀬戸内海関係府県が環境省の委託を受け、昭和47年度から実施しており、平成29年度は、春季、夏季、秋季、冬季の年4回にわたり、生活環境項目、クロロフィル-a、全有機炭素、栄養塩類等について、大分県地先海域の15地点(2層)の測定を行った。	水質担当
海水浴場水質調査	県下の主要海水浴場の水質の状況を把握するとともに、一般に公表し県民の利用に資するために昭和47年から実施しており、平成29年度は、4海水浴場について東部保健所と分担し、遊泳期間前2回、遊泳期間中1回の調査を行った。	水質担当 微生物担当 大気・特定化学物質担当
工場・事業場の排水監視に伴う水質調査	水質汚濁防止法及び瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく規制対象事業場等の排水監視のため、平成29年度は、182事業場の199の排水について水質測定を行った。	水質担当
産業廃棄物調査	産業廃棄物最終処分場の維持管理状況を監視・指導するため、放流水、浸出水及び監視用井戸水について調査を実施している。平成29年度は、生活環境項目や健康項目等について、21処分場の114の放流水等の水質測定を行った。	水質担当
温泉調査	温泉法に基づき、現地(湧出地)及び試験室において、平成29年度は、依頼検査2件と行政検査25件の温泉分析を行った。	水質担当 微生物担当

表 衛生2 大気汚染等に関する調査分析件数

(平成29年度)

区 分	行政検査		依頼検査		委託業務検査		調査研究		計	
	検体数	成分数	検体数	成分数	検体数	成分数	検体数	成分数	検体数	成分数
総 数	859	29,595			233	698	178	1,990	1,270	32,283
微小粒子状物質 (PM2.5)成分分析調査	448	5,152							448	5,152
有害大気汚染物質調査	216	875							216	875
浮遊粉じん調査	12	60							12	60
ダイオキシン類調査	40	1,560							40	1,560
大気汚染常時監視	120	21,782							120	21,782
交通環境・一般環境調査	5	36							5	36
悪臭物質等調査	2	46							2	46
そ の 他	4	48			1	3			5	51
環境放射能調査	12	36			193	311			205	347
酸性雨調査					39	384	73	676	112	1,060
大気環境に関する調査研究							105	1,314	105	1,314

表 衛生3 水質汚濁等に関する調査分析件数

(平成29年度)

区 分	行政検査		依頼検査		委託業務検査		調査研究		計	
	検体数	成分数	検体数	成分数	検体数	成分数	検体数	成分数	検体数	成分数
総 数	1,023	13,450	2	82	123	2,228			1,148	15,760
公共用水域等の調査	561	8,896							561	8,896
海水浴場調査	66	168							66	168
工場・事業場排水 監視水質調査	199	1,045							199	1,045
産業廃棄物調査	114	1,890							114	1,890
温泉分析	25	1,034	2	82					27	1,116
そ の 他	58	417							58	417
瀬戸内海広域 総合水質調査					116	2,160			116	2,160
化学物質環境実態調査					7	68			7	68